

事務事業評価表 平成22年度

政策 環境と調和する都市の構築
 施策 循環型社会の形成
 基本事業 適正なごみ処理の推進 啓発

事業名 **環境クリーンセンター等モニタリング事業**

[0824]

部名	生活環境部	事業開始年度	平成19年度	実施計画事業認定	対象
課名	環境室清掃管理課参事 (処理施設担当)	事業終了年度	平成33年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>環境クリーンセンター外長期包括的管理委託対象施設</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>適確 適切に施設の維持管理が図られる。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>民間SPCによる包括委託業務について、施設に常駐する職員により報告書のチェック及び現場立ち入り調査等の手法によりモニタリングを行う</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	委託施設数	施設		3	3	3
対象指標2						
活動指標1	予算額	千円		1,379	1,347	2,954
活動指標2						
成果指標1	SPC (受託事業者) の管理不備指摘件数	件		0	0	0
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	0	1,379	1,347	2,954
正職員人件費 (B)		千円	1,675	41,790	41,490	41,640
総事業費 (A) + (B)		千円	1,675	43,169	42,837	44,594

費用内訳	
21年度	旅費 5千円、需用費 763千円、役務費 108千円、使用料及び賃借料 63千円、負担金 補助及び交付金 28千円、公課費 381千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	19年10月から、一連の施設群を民間事業者へ長期包括的に運営管理を委託した。 (19年度は別評価表にて管理)	事業を取り巻く環境変化	
--------	---	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
妥当である
妥当性が低い

理由・
根拠は？

包括的に民間委託を行わせているため、設置者である自治体自らによるモニタリングは、施設の正常な維持管理には不可欠である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
貢献度ふつう
貢献度小さい
基礎的事務事業

理由・
根拠は？

適切な維持管理によりダイオキシン等の排出管理の適正化が図られるので、貢献度は大きい。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
どちらかといえばあがっている
あがらない

理由・
根拠は？

管理はほぼ順調に行われている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
成果向上余地 中
成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

ごみ処理不能となるようなトラブルは発生しておらず、成果向上余地はない。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
ない

理由・
根拠は？

モニタリングに要する必要最小限の事務経費等を計上しているため、コスト削減の余地はない。